

ネギ類

〈玉ねぎ・ニラ・にんにくなど〉

中毒成分：有機チオ硫酸化合物

影響を受けるどうぶつ



犬



猫



鳥



うさぎ



フェレット

※他のどうぶつでも同様の症状が出る可能性があります。

毒性

柴や秋田犬などの日本犬や猫は、この毒に対する感受性が特に高く重症化しやすい。



玉ねぎの中毒量

体重1kgあたり15～30g ※

中型犬約10kgの場合：小玉ねぎ1個程度

※食材を加熱しても中毒成分は残り、スープなどに溶け出した場合も同様の中毒を引き起こす。

作用機序

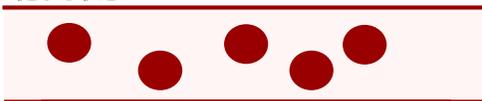
概要

ネギ類の中毒成分が消化管で吸収されて血液中に入ると、赤血球の酸化障害を引き起こしその結果、**貧血症状を発症**する。

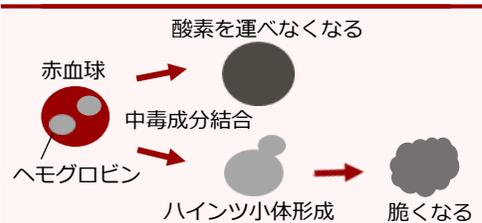
詳細

- 赤血球中に含まれ、酸素を運搬する役割をもつヘモグロビンにこの中毒成分が結合すると酸素をうまく運搬できなくなる。
- 中毒成分と結合したヘモグロビンは赤血球内の膜付近で塊となり、ハインツ小体を形成する。ハインツ小体をもつ赤血球は膜が脆いため壊れやすく、また、形状が異常なので循環血中から排斥されていく。

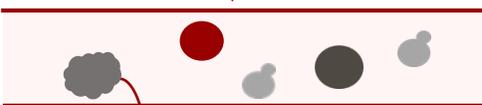
健康な状態



中毒成分の摂取



貧血症状



排斥

主な症状

循環器



赤血球が壊れることにより、以下の貧血症状が現れる

酸素が全身へ行き渡らなくなる

呼吸数の増加
粘膜の蒼白

最悪の場合
死に至る

赤血球内のヘモグロビンが血中に流出する

ヘモグロビン尿（赤茶色の尿）
黄疸